

Q1

献血は誰でもできるの？

A

献血者の健康面の安全を確保するため、また、輸血を受ける方の安全を守るために、献血を行っていただくかの問診を行います。採血基準の主なものは、左図の通りです。

		200ml献血	400ml献血	成分献血
年齢	男	16歳から	17歳から	18歳から
	女		18歳から	
体重	男	45kg以上	50kg以上	45kg以上
	女	40kg以上		40kg以上



Q2

採血にはどのくらい時間がかかるの？

A

採血にかかる時間は、200ml献血・400ml献血で15分程度、成分献血は採血量に応じて40〜90分程度です。

全血献血で
15分程度
だっち。



また、輸血を受ける方の安全を守るため、HIV（エイズの原因となるウイルス）感染が疑われる方、輸血や臓器移植を受けた方、一定の期間に英国などへの海外滞在歴がある方等については問診で確認し、献血をご遠慮いただいています。

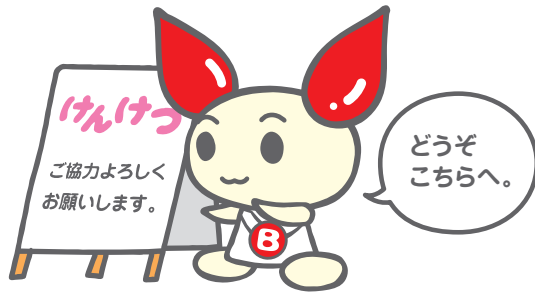
Q3

献血はどいどでできるの？

A

献血の受け入れを行っているのは、日本赤十字社です。

日本赤十字社では、たくさんの方に献血をしていただけるよう様々な場所での献血の受け入れを行っています。



献血バス

献血ルームや血液センターが近在しない地域に出張します。



献血ルーム

都市部を中心に交通の便のよいところにあり、献血者がリラックスできる設備が備わっています。また、リラクゼーションや占いといったサービスを提供している献血ルームもあります。



その他

学校や会社で献血する場合、屋内のスペースを臨時の献血会場にします。



血液センター

献血の受け入れから採血された血液の品質検査、血液製剤の製造・保管・供給を行っています。



Q4

献血の際に、病気がうつることはありますか？

A

衛生環境は厳重に管理しているため、心配ありません。

献血をするときに使われる針や血液のバッグなどは、献血者一人ごとに新しいものと交換されますので、ほかの献血者から肝炎ウイルスやHIV（エイズの原因となるウイルス）などがうつることは絶対にありません。

Q5

なぜ献血された血液を検査するの？

A

患者さんに安全な血液をお届けするためです。

献血された血液は、患者さんに安全な輸血が行われるよう、血液型をはじめ厳しい検査が行われています。

しかし、肝炎ウイルスやHIVの感染初期には、最新の検査によっても感染を発見することはできないことから、検査目的の献血は、患者さんに感染させてしまうかもしれない大変危険な行為となります。もしも、肝炎ウイルスやHIVに感染した可能性がある、あるいはその心配がある場合は、専門の医療機関または最寄りの保健所に相談ください。また、エイズ検査の結果は、お知らせしていません。

Q6

献血をすると体のことが分かるって聞いたんですけど。

A

はい、ご希望の方には、血液検査の結果をお知らせします。



血液センターでは、すべての献血者に血液検査（生化学検査）を行うため、献血者が体の健康状態の把握をすることができます。またその結果は、外部に漏れることなく、献血者本人にのみお知らせをするようになっています。自分では気が付かなかった病気が献血時の検査で見つかり、早く適切な治療を受けることで大事に至らなかつたケースも数多くあります。

Q7

400ml献血と成分献血を勧められるのはなぜですか？

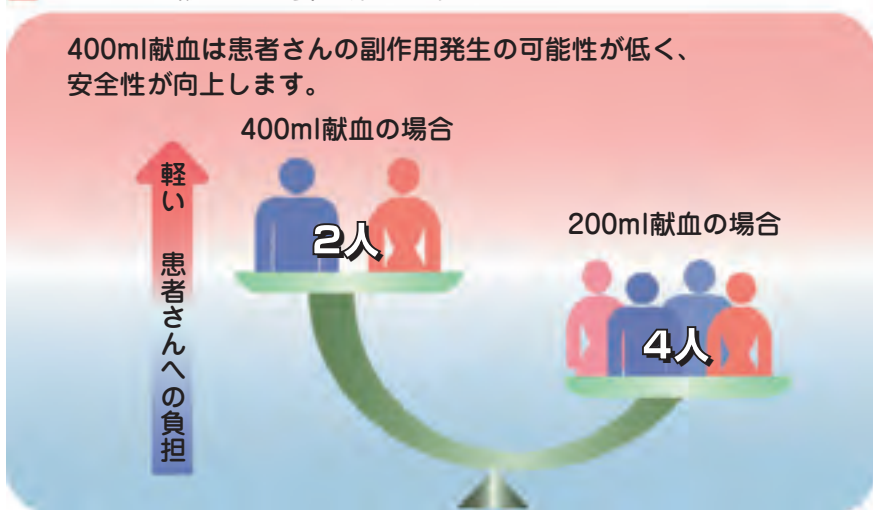
A

量の確保という面だけではなく、輸血の安全性を高めることにつながるからです。

輸血を受ける患者さんにとって、なるべく少人数の献血者の血液を使用する方が血液を介する感染の危険性も少なく、体への負担が軽いことが分かっています。よって、400ml献血や、一度に多くの血小

800mlの輸血に必要な献血者数

400ml献血は患者さんの副作用発生の可能性が低く、安全性が向上します。



板製剤や血漿製剤をつくることができる成分献血は、患者さんにとってより安全であると言えます。また成分献血では、体の中で回復するのが遅い赤血球成分は献血者に返すので、献血者にとっても体の負担が軽いのです。成分献血は、18歳以上の方、400ml献血は、17歳以上の男性及び18歳以上の女性にお願いしています。それぞれの年齢に達したらご協力ください。

Q8

そのほかに、献血をするときの注意はありますか？

A

はい、患者さんに安全な血液を提供するための、さまざまな決まりがあります。

献血は、みなさんのやさしさを、患者さんにとっかかりとつなげていく仕組みです。だからこそ、安全な血液をお届けするために、色々な条件があるのです。

これから先の項目に当てはまる方は、注意事項をしっかりと読んでください。

●薬を飲んでいる方へ・・・

病気の種類や薬の種類によって献血をご遠慮いただくことがあります。しかし、ビタミン剤などのいわゆる「保健薬」の類については、内服されていても支障ありません。

●ピアスをしている方へ・・・

医療機関や使い捨ての器具で穴をあけた方は、細菌に感染している可能性があるため、最低1ヶ月間献血をご遠慮いただいています。また友人同士などで安全ピンを共用して穴をあけた方は、血液を介するウイルスに感染している可能性を考慮して、6ヶ月間献血をご遠慮いただいています。また、口唇、口腔、鼻腔など粘膜を貫通してピアスをされている方は、献血をご遠慮いただきます。

●タトゥーをしている方へ・・・

6ヶ月以内にタトゥー（入れずみ）を入れた方は、肝炎などのウイルス感染の可能性がありますので、献血をご遠慮いただいています。

●海外旅行をした方へ・・・

輸血を介して感染するおそれがある疾患（ウイルス感染症等）のリスクを軽減するため、海外からの帰国日（入国日）当日から4週間以内の方からの献血は、ご遠慮いただいております。また、一定の期間に英国などへの海外滞在歴がある方については、近年英国を中心に発生している変異型クワイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）の輸血による伝播を防ぐため、当分の間献血をご遠慮いただくこととしています。詳しくは日本赤十字社ホームページ（<http://www.jrc.or.jp/>）をご覧ください。

気をつけるっち。

